

## 幼稚園教育と小学校教育の関連について〔Ⅱ〕

福 田 啓 子・武 石 仁 美・橋 口 英 俊

(昭和59年10月15日受理)

### The Relationship of the Kindergarten and Elementary School Education

Keiko FUKUDA, Hitomi TAKEISHI, Hidetoshi HASHIGUCHI

(Received October 15, 1984)

#### Ⅰ はじめに

本研究は、幼稚園教育と小学校教育の一貫性を図るための具体的な提言を試みることを目的としたものである。いうまでもなく、子どもの成長発達において学校教育の果たす役割は大きく、特に幼稚園から小学校への移行期にどのような教育がなされたかにより、その子どもの将来の人格形成にとって少なからぬ影響を与えるであろうことは言を俟たない。

幼稚園教育と小学校教育の関連については、近年その必要性とあり方が論議されているが現実の教育の場においてはまだ解決していない多くの問題が山積している。

われわれは、これまでに幼小関連の現状と問題点について、両機関に勤務する各教師の意見を中心に述べてきた<sup>1) 2)</sup>。すなわち、そこでは幼稚園側の小学校教育への期待と現実の小学校教育の間のズレ、および小学校側の幼稚園教育への期待と現実の幼稚園教育の間のズレがかなり大きいことを指摘した。したがって、次の課題として、それらの原因を追求し、幼小の教育体制からその関連性と問題点を明らかにすることによって、さらに相互の連携を深めていくための教師の姿勢や態度のあり方を問い直す必要がある。

ここで報告するのは、その一環をなすものであり、まず、最初に前回にも触れた幼稚園教育要領および小学校学習指導要領の教育目標について、より具体的な内容に焦点をあわせ検討する。そして、次に間接的ではあるが、本学の幼稚園と小学校双方の教員免許取得コースの学生を対象に、その幼稚園実習前後で行なった調査結果を中心に彼女らの目を通してみた幼稚園教育と小学校教育の

相違点や望ましい教師のあり方について検討し、幼小関連に付随する問題の一端を明らかにしようとするものである。

#### Ⅱ 方 法

1 幼稚園教育要領<sup>3)</sup>と小学校学習指導要領<sup>4)</sup>の教育目標と内容について検討する。

2 幼稚園および小学校両免許取得コースの学生の実習前後の調査を行なう。

A 調査対象：本学の幼稚園と小学校双方の教員免許状取得コースの学生73名である。

B 調査手続き：幼稚園実習前のオリエンテーション時および実習後の反省会で質問調査票を配布し記入してもらう。また、実習日誌や個別面接あるいは反省会などにおける学生の直接、間接の意見も参考とした。

C 質問調査票：鈴木ら<sup>5)</sup>を参考に次のような内容により構成した。

- a 就職先希望(自由記述)
- b 教師になりたい理由(自由記述)
- c 教師になりたい程度

5段階(非常になりたい、かなりになりたい、やややりたい、あまりなりたくない、ぜったいになりたくない)で評定してもらう。

- d 幼稚園教諭に対する肯定的イメージ

以下の項目に対して、学生に「教師になる決心をするにあたってどの程度重要(プラスになる)ですか」という質問を与え5段階(非常に重要、かなり重要、やや重要、あまり重要でない、全く問題としない)で評定してもらう。

- ① 男女の差別なく仕事ができる。② 自分を生かす

ことができる, ③ 性格に適している, ④ 永く続けられる, ⑤ 純粋な子どもの相手ができる, ⑥ 安定性がある, ⑦ 近親者が教師, ⑧ 他に適当な仕事がない, ⑨ 上下の区別がない, ⑩ 若々しい仕事, ⑪ 社会的に敬意が払われる, ⑫ 休日が多い, ⑬ 子どもの成長を助ける, ⑭ 女性の適職, ⑮ 価値の高い仕事, ⑯ よい先生の影響, ⑰ 子どもが好きである, ⑱ 社会的に重要な仕事, ⑲ 自由のある仕事, ⑳ やりがいがある。

#### e 幼稚園教諭に対する否定的イメージ

以下の項目に対して、「教師になりたくない気持ちにさせる要因はどの程度（マイナス）ですか」という質問を与え5段階（非常にマイナス, かなりマイナス, ややマイナス, あまりマイナスでない, 全く問題としない）で評定してもらう。

① やばくさい仕事, ② 出世の道が狭い, ③ 私生活が束縛される, ④ 教（保）育に問題がある, ⑤ 専門的職業として確立していない, ⑥ 他にしたいことがある, ⑦ 父兄や社会の干渉をうける, ⑧ 子どもが好きでない, ⑨ 家庭に仕事を持ち込まれる, ⑩ 自分が未熟である, ⑪ 体力が必要だ, ⑫ 今日の教師の実情に不満, ⑬ マンネリになりがち, ⑭ 一般に資格が低い, ⑮ 性格に適さない, ⑯ 社会的に地位が低い, ⑰ 自信がもてない, ⑱ デモ, シカ先生が多い, ⑲ 政治や権力の干渉をうける, ⑳ 子ども相手の仕事だ, ㉑ 雑用が多い, ㉒ 視野が狭くなる, ㉓ 教師タイプになりやすい, ㉔ 給料がやすい, ㉕ 任務が重大すぎる, ㉖ 女教師が多すぎる。

#### f 幼稚園教諭として望ましい人格特性の位置づけ

以下の項目について上位5位まで選択してもらう。

① 順応性, ② 魅力, 風采, ③ 健康, ④ 思いやりがあること, ⑤ 注意深さ（正確さ, 明確さ, 徹底性）, ⑥ 熱心（機敏, 活発, 自主性）, ⑦ 勤勉（忍耐, 不撓）, ⑧ 興味の広さ（地域社会, 教職, 幼児に関するもの）, ⑨ よい判断（思慮深さ, 先見, 洞察, 叡知）, ⑩ 指導力（創造性, 自信）, ⑪ きちんとしていること（清潔）, ⑫ 人を引きつける力（近ずきやすさ, 快活, ユーモア感）, ⑬ 独創力（想像力, 応用の才）, ⑭ 洗練（慣例重視, よい趣味, 道徳性, 素材）, ⑮ 克己（静けさ, 威厳, ひかえめ, まじめ）

#### g 小学校教育（実習）との違い

以下の項目は、学生の過去5年間の実習報告書より、

特に問題とされる内容を抽出して構成した。学生には、「前回の小学校実習と比較して、幼稚園実習中特に困ったことや難しかったと思われること」を上位5位まで選択してもらう。

① 時間の区切り方, ② 教材準備（自分で工夫, 選択）, ③ 子どもへのことば使い, ④ 子どもへの働きかけ（タイミング）, ⑤ 子どもとの遊び, ⑥ 生活指導（あいさつ, 手洗い, お弁当）, ⑦ 子どもの個性を尊重する, ⑧ 全体のバランスをとる, ⑨ 子どものやる気, 意欲を引き出す, ⑩ 臨機応変に対処する（けんかや子どもからの質問）, ⑪ 安全指導, ⑫ 健康指導, ⑬ 教科指導（ピアノ, 歌, 絵画など）, ⑭ 園の教育方針（公私立, 園独自の指導内容, 宗教）, ⑮ 母親との関わり（家庭環境, 地域の問題）, ⑯ 職場での人間関係, ⑰ その他

h 最後にまとめもかね、両方の実習終了後、「幼稚園教育と小学校教育の関連について考えていること、気づいたこと、感じたことがありましたら自由に書いて下さい」というテーマを与え、作文風に自由に記述してもらった。

### Ⅲ 結果および考察

#### 1 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の比較

幼稚園と小学校の一貫教育を実践していくためには、子どもの発達の特徴を充分につかみ、連続した流れの中で、何を、どのように教育するかという目標の基にカリキュラムが構成され、それに沿った指導が教師によってなされなければならない。現行制度における幼稚園と小学校の教育目的や目標については前回に述べたが、ここではそれを一歩すすめて目標達成のための具体的な内容について、両者を比較しながらそれぞれの特徴や関連性などをみていく。

表1は、幼稚園教育要領の6領域の内容22項目と小学校学習指導要領の1学年7教科の内容17項目を示したものである。まず幼稚園のほうをみると「興味や関心をもつ」「習慣や態度を身につける」「のびのびと」「喜びを味わう」などの表現が目だって多いのに対し、小学校では、それに加え「理解させる」「気づく」「試す」「能力を養う」などの表現が目につく。すなわち、幼稚園では子どもの内面的な興味や動機を前提とした習慣形成に重点がおかれているのに対し、小学校では、同時に知識や技能の一定基準を想定し、その目標達成にむけて

表 1 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の比較

幼稚園	小学校
<p>〈健康〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康な生活に必要な習慣や態度を身につける。</li> <li>いろいろな運動に興味をもち、進んで行なうようになる。</li> <li>安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。</li> </ol> <p>〈社会〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>個人生活における望ましい習慣や態度を身につける。</li> <li>社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。</li> <li>身近な社会の事象に興味や関心をもつ。</li> </ol> <p>〈自然〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身近な動物を愛護し、自然に親しむ。</li> <li>身近な自然の事象などに興味をもち自分で考えたり、扱ったりしようとする。</li> <li>日常生活に適應するために必要な簡単な技術を身につける。</li> </ol> <p>〈言語〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人のことばや話などを聞いてわかるようになる。</li> <li>経験したことや自分の思うことなどを話することができるようになる。</li> <li>日常生活に必要なことばが正しく使えるようになる。</li> <li>絵本、紙しばいなどに親しみ、想像力を豊かにする。</li> </ol> <p>〈音楽リズム〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>のびのびと歌ったり、楽器をひいたりして表現の喜びを味わう。</li> <li>のびのびと動きのリズムを楽しみ表現の喜びを味わう。</li> <li>音楽に親しみ聞くことに興味をもつ。</li> <li>感じたこと、考えたことなどを音や動きに表現しようとする。</li> </ol> <p>〈絵画製作〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>のびのびと絵をかいいたり、ものを作ったりして表現の喜びを味わう。</li> <li>感じたこと、考えたことなど工夫して表現する。</li> <li>いろいろな材料や用具を使う。</li> <li>美しいものに興味や関心をもつ。</li> </ol>	<p>〈国語〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>経験した事、身近な事柄などについて、簡単な文章を書いたり、話をしたりすることができるようにするとともに、進んで表現しようとする態度を育てる。</li> <li>書かれている事柄の大体を理解しながら、文章を読んだり、粗筋をつかみながら話を聞いたりすることができるようにするとともに、易しい読み物を楽しんで読もうとする態度を育てる。</li> </ol> <p>〈社会〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活を支えている人々の仕事や施設などのはたらきに気づかせ、社会の一員としての意識をもつようにさせる。</li> <li>日常生活で経験する社会的事象を具体的に観察させ効果的に表現させる。</li> </ol> <p>〈算数〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>具体的な事象の取扱いを通して、数の概念や表し方について理解させるとともに、簡単な場合について加法及び減法が用いられるようにする。</li> <li>具体的な事象の取扱いを通して、量の概念や測定について基礎的なことを理解させる。</li> <li>具体的な操作を通して、図形や空間についての理解の基礎となる経験を豊かにする。</li> </ol> <p>〈理科〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身近にみられる生物を探したり世話したりさせて生物の著しい特徴に気づかせるとともに、生物に親しむ楽しさを味わわせる。</li> <li>身近な自然の事柄、現象に親しませ、それらを見たり試したりさせて、事物、現象の著しい特徴に気づかせるとともに、自然に接する楽しさを味わわせる。</li> </ol> <p>〈音楽〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>音楽の美しさを感じとらせるとともに、音楽についての興味や関心をもたせる。</li> <li>リズムの聴取や表現に重点を置いて、表現及び鑑賞の能力を養う。</li> <li>音楽経験を生かして、生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。</li> </ol> <p>〈図画工作〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>初歩的な造形活動の楽しさを味わわせるとともに、感じたことや考えたことを絵や立体で表わす喜びを味わわせる。</li> <li>使うものをつくる喜びとそれを使う楽しさを味わわせる。</li> <li>かいいたりつくったりしたものをみることに関心をもたせる。</li> </ol> <p>〈体育〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各種の基本の運動及びゲームを楽しむできるようにし、体力を養う。</li> <li>だれとでも仲よくし、健康、安全に留意して運動する態度を育てる。</li> </ol>

の指導内容が重視されていることがうかがわれる。また、幼稚園では表にも示されている通り一応6領域にわけられてはいるが総則によると「幼児の具体的、総合的な経験を通して各領域の目標が卒園までに達成されることが望ましい<sup>6)</sup>」という程度でその教材や活動は園に任されている。それが小学校になると原則として教科ごとの指導に重点がおかれ、さらに内容との関連については、幼稚園教育要領で「幼稚園教育の特質に基づき各領域は小学校における各教科とその性格が異なることに留意しなければならない<sup>6)</sup>」とあるように、小学校と幼稚園との関連はさほど重視されてはいないことがわかる。しかし、小学校学習指導要領では「1学年及び2学年においては、一部の各教科においてこれらを合わせて授業を行なうことができる<sup>7)</sup>」「低学年においては合科指導が十分できるようにすること<sup>8)</sup>」と記され、幼稚園との断差を狭めようとする配慮はうかがわれるが、その展開方法についてはまだ具体化されていないのが現状である。もちろん現行制度における幼小の教育目標や内容の違いは、子どもの発達に依じての違いであるはずでその表現や形態は変わっても、基本的な子どものあるべき姿は変わらないのが当然であろう。しかしながら、現実には教育に携わる教師の価値観、教育観、社会観などにより、カリキュラムの目標も内容も変化してくる。すなわち、表面上は教育の目標や内容の関連が図られているようにみえても、現実のシステムの問題や教師の姿勢やあり方、あるいはどこにどのような教育のねらいをおくかにより、実際に育っていく子どもたちにも大いに差異が出てくるのである。そして、前回に述べたような幼小間のズレの原因の一端もこのへんにあるのではないと思われる。

いいかえれば、幼小一貫教育を実践していくためには、教育体制に対して教育現場がいかなる教育観と姿勢で対応するかが重要な鍵となり、さらに、教師の意図する目的や内容と子どもの自主性を調和させ、子どもの意識に混乱を起こすことのない移行方法を考えていかねばならない。そして、そのためには、必然的に教師の意識と教育的態度の変革が望まれるのである。

2 幼稚園、小学校実習前後の意識調査

ここでは、Iに述べた問題を補う意味で、幼稚園、小学校両免許取得コースの学生の幼稚園実習と小学校実習前後に行なった調査結果について述べる。調査結果で一部未回収や記入不備があったので、それらを省き、64名

分を有効とした。

(1) 就職先希望および教師になりたい程度

表2は、実習前後の就職先希望を示したものである。また、表3は、教師になりたい程度を示したものである。まず表2を全体としてみれば明らかなように、実習前後を通じ、学生のほとんどは幼稚園あるいは小学校教諭になることを希望している。また、表3では、実に70%以上の学生が「非常になりたい」あるいは「かなりになりたい」と答え、教師という職業に携わることを強く望んでいることがわかる。なお、実習後においては、小学校希望者が減り、幼稚園が増えている。さらに、実習前では「幼稚園、小学校のどちらか」を答えた者が10名あったが実習後では0になっている。実習後は時期的に就職先がほぼ決定していたことなども関係していると思われる。また表3のなりたい程度も、「非常になりたい」が35.9%から53.1%とはねあがっていることは、同時に実習の影響も無視できないように思われる。個々のケースについては後で考察したい。

表2 就職先希望

単位は人数(%)

希望先	前後	実 習 前	実 習 後
小 学 校		45(70.3)	37(57.8)
幼 稚 園		7(10.9)	11(17.2)
幼・小どちらか		10(15.6)	0
一 般 企 業		2( 3.1)	6( 9.4)
公 務 員		0	6( 9.4)
そ の 他		0	3( 4.7)

表3 教師になりたい程度

単位は人数(%)

程度	前後	実 習 前	実 習 後
非常になりたい		23(35.9)	34(53.1)
かなりになりたい		25(39.1)	14(21.9)
やややりたい		7(10.9)	7(10.9)
あまりなりたくない		0	3( 4.7)
絶対になりたくない		0	0

(2) 教師になりたい理由

次に、実習後に「なぜ教師になりたいのか」という質問を与えたところ、下記のような答が返ってきた。

① やりがいがある (31.5%), ② 子どもが好きだから (23.3%), ③ 子どもの教育に自分を役立てたい (11.7%), ④ 資格がとれる (9.6%), ⑤ 子どもと共に学んでいきたい (9.5%), ⑥ 恩師の影響 (8.2%), ⑦ 自分に適していると思う (6.8%), ⑧ 自分が向上していく職業である (5.5%), ⑨ 一生続けていける職業である (5.5%), ⑩ 子どもの頃からの希望であった (4.1%), ⑪ その他 (5.5%)

すなわち、ここでは、教師という職業を子どもとの関わりを通して、自分も成長していきたいという期待が多くみられる。また、恩師の影響と答えた学生からは、幼稚園あるいは小学校時代に尊敬する教師に出会い、感銘をうけ、そこに自分の理想とする人間像を抜き、自分もまたそのような影響を与える教師として生きていきたいという気持の表明があり、教師の姿勢や態度の後代に与える意味の大きさを感じさせる。

### (3) 幼稚園教諭に対する肯定的および否定的イメージ

表4は、幼稚園教諭に対する肯定的イメージを表わしたものであり、表5は、同じく否定的イメージを表わしたものである。表中の得点は「非常に重要から全く問題とならない」の各5段階の程度に応じてそれぞれ5点、4点、3点、2点、1点と重みを与え、人数により得点と平均(m)を求めたものである。まず表3の幼稚園教諭の肯定的イメージでは、教師になりたい要因として得点が高かったのは、実習前では、次のような結果となる。( )内は平均を表わす。2.自分を生かすことができる (4.31), 5.純粋な子どもの相手ができる (3.97), 17.子どもが好きである (4.25), 20.やりがいのある仕事 (4.66)であり、8.他に適当な仕事がない (17.5), 9.上下の区別がない (2.14), 10.若々しい仕事 (2.17), 11.社会的に敬意が払われる (2.60), などは低い得点となる。実習後では実習前とほとんど変わらず、わずかに1.男女の差別なく仕事ができる (3.56—3.03)に有意差(5%以下)がみられたのである。

幼稚園教諭の特殊性もあると思われるが、実習後それほど問題視しない方向に変化しているのは興味深いものがある。また、20.やりがいがある。では得点化した平均値においては差はみられないが、各段階ごとの評定をみると、実習前に「非常に重要」とつけた者が47名いたが実習後では40名となり、また「かなり重要」が実習前13名あったが実習後22名に増加している。実習がこのような形で彼女らの基本的態度に微妙な影響を及ぼしてい

ることが示唆される。

次に否定的イメージの表5では、教師になりたくない要素として、実習前では、10.自分が未熟である(3.94), 17.自信がもてない (3.23), 23.教師タイプになりやすい (3.11), 25.任務が重すぎる (3.30)が比較的高く、1.やばくさい (1.44), 2.出世の道が狭い (1.34), 16.社会的に地位が低い (1.47)は低くなっている。実習後では得点の上では実習前と有意差のある項目はないが、10.若々しい仕事だ、では「非常にマイナス」を選択した人数が実習前25名であったのが実習後14名に減っているのが特徴的である。実習を終えて事前にもっていたイメージが積極的な方向に変化しているのは、その効用を考える上でも興味深い。しかし、全体として幼稚園教諭を肯定的、あるいは否定的イメージでとらえる場合上述のような微妙な差はあるにせよ、実習前にもっていた印象が大勢においてそう簡単には変わらないことが示唆される。

### (4) 望ましい幼稚園教諭のあり方

表6は、幼稚園教諭として望ましい人格特性について上位5位までを選択し、得点化した結果である。得点方法は、1位から5位までの人数にそれぞれ5点、4点、3点、2点、1点と重みを与え、その合計を得点とした。これらをみてわかることは、「健康」が実習前後を通じ最も得点が高く、以下「思いやりがあること」、「熱心」、「よい判断力」と続いている。「健康」については、実習前では1位にあげた学生が31名であるが実習では38名と増え、得点も高くなっている。また、「思いやり」、「注意深さ」、「独創性」、「順応性」、「魅力／風采」、「克己」などは実習後に得点が高くなり、「熱心」、「よい判断力」、「人をひきつける力」、「指導力」、「勤勉」、「正直」、「興味の広さ」、「きちんとしていること」、「洗練」などは低くなっている。特に「順応性」の急激な上昇と「正直」の減少が目立つ。今まで、幼稚園を外側からだけのイメージでとらえ、実際に子どもたちと触れることによって、幼稚園の教師というものが、知識や興味だけではなく、応用力が子どもに対しての注意深さが大事であること、すなわち、行動力と柔軟性が必要とされることを感じとっていることがうかがわれる。

これらの結果を補う意味で、実習後に「幼稚園教諭になった場合、一番大切だと思うことはどのようなことですか」という自由記述式の質問を与えたところ、次のような答えが返ってきた。( )内は人数。① 体力、健康な身体 (20), ② 教師自身の向上 (6), ③ 子ど

表4 幼稚園教諭に対する肯定的イメージ

単位は人数(%)

項目	実習前後 程度	実 習 前							実 習 後							総合 得点
		非 常 に 重 要	か な り 重 要	やや重要	あまり重要でない	全く問題 としない	得点	平均	非 常 に 重 要	か な り 重 要	やや重要	あまり重要でない	全く問題 としない	得点	平均	
1. 男女の差別なく仕事ができる		12(18.6)	20(31.3)	22(45.3)	7(10.9)	1( 1.6)	221	3.6	3( 4.7)	19(29.7)	22(34.4)	15(23.4)	4( 6.3)	191	3.0	412
2. 自分を生かすことができる		28(43.8)	29( 4.3)	6( 9.4)	1( 1.6)	0( 0 )	276	4.3	31(48.4)	20(31.2)	11(17.2)	2( 3.1)	0( 0 )	272	4.3	548
3. 性格に適している		12(18.6)	30(46.7)	17(26.6)	5( 7.8)	0( 0 )	241	3.8	14(21.9)	29(45.3)	15(23.4)	6( 9.4)	0( 0 )	243	3.8	484
4. 永く続けられる		14(21.9)	27(42.2)	20(31.3)	3( 3.7)	0( 0 )	244	3.8	15(23.4)	28(43.8)	11(17.2)	8(12.5)	2( 3.1)	238	3.7	482
5. 純粋な子どもの相手ができる		21(32.8)	23(35.9)	17(26.6)	3( 3.7)	0( 0 )	237	4.0	26(40.6)	24(37.5)	9(14.1)	4( 6.3)	1( 1.6)	262	4.1	499
6. 安定性がある		12(18.6)	22(34.4)	21(32.8)	8(12.5)	1( 1.6)	228	3.6	4( 6.3)	19(29.7)	26(40.6)	11(17.2)	4( 6.3)	200	3.1	428
7. 近親者が教師		8(12.5)	8(12.5)	11(17.2)	13(20.3)	24(37.5)	155	2.4	7(10.9)	3( 4.7)	9(14.1)	16(25.0)	28(43.8)	134	2.1	289
8. 他に適当な仕事がない		0( 0 )	4( 6.3)	7(10.9)	22(34.4)	31(48.4)	112	1.8	2( 3.1)	0( 0 )	8(12.5)	16(25.0)	38(59.4)	104	1.6	216
9. 上下の区別がない		0( 0 )	6( 9.4)	10(15.6)	35(54.7)	13(20.3)	137	2.1	0( 0 )	1( 1.6)	12(18.8)	36(56.3)	15(23.4)	127	2.0	264
10. 若々しい仕事		0( 0 )	5( 7.8)	16(25.0)	28(43.8)	15(23.4)	139	2.2	0( 0 )	2( 3.1)	13(20.3)	38(59.4)	11(17.2)	134	2.1	273
11. 社会的に敬意が払われる		0( 0 )	3( 4.7)	15(23.4)	29(45.3)	17(26.6)	132	2.1	0( 0 )	2( 3.1)	9(14.1)	35(54.7)	18(28.1)	123	1.9	255
12. 休日が多い		1( 1.6)	3( 4.7)	16(25.0)	32(50.0)	12(18.8)	141	2.2	2( 3.1)	3( 4.7)	19(29.7)	27(42.2)	13(20.3)	146	2.3	287
13. 子どもの成長を助ける		13(20.3)	25(39.0)	21(32.8)	4( 6.3)	0( 0 )	236	3.8	17(26.6)	26(40.6)	14(21.9)	5( 7.8)	2( 3.1)	243	3.8	479
14. 女性の適職		1( 1.6)	9(14.1)	28(43.8)	21(32.8)	5( 7.8)	172	2.7	1( 1.6)	8(12.5)	26(40.6)	24(37.5)	5( 7.8)	168	2.6	340
15. 価値の高い仕事		17(26.6)	20(31.3)	20(31.3)	7(10.9)	0( 0 )	239	3.7	17(26.6)	21(32.8)	17(26.6)	6( 9.4)	3( 4.7)	235	3.7	474
16. よい先生の影響		12(18.8)	10(15.6)	16(25.0)	20(31.2)	6( 9.4)	194	3.0	8(12.5)	16(25.0)	16(25.0)	13(20.3)	11(17.2)	189	3.0	383
17. 子どもが好きである		32(50.0)	17(26.6)	14(21.9)	1( 1.6)	0( 0 )	272	4.3	28(43.8)	25(39.1)	9(14.1)	1( 1.6)	1( 1.6)	270	4.2	542
18. 社会的に重要な仕事		9(14.1)	24(37.5)	30(21.9)	1( 1.6)	0( 0 )	233	3.6	11(17.2)	23(35.9)	24(37.5)	4( 6.3)	2( )	229	3.6	462
19. 自由のある仕事		1( 1.6)	9(14.1)	26(40.6)	19(14.1)	9(14.1)	166	2.6	1( 1.6)	12(18.8)	20(31.3)	25(39.1)	6( )	169	2.6	335
20. やりがいがある		47(73.4)	13(20.3)	3( 4.7)	1( 1.6)	0( 0 )	298	4.7	40( )	22(34.4)	2( 0 )	0( 0 )	0( 0 )	294	4.6	592

福田 啓子・武石 仁美・橋口 英俊

表5 幼稚園教諭に対する否定的イメージ

単位は人数(%)

項 目	評 定		実 習 前						実 習 後						総合 得点
	非 常 に マイナス	か な り マイナス	や や マイナス	あ ま り 気 不 満	全 く 気 不 満	得点	平均	非 常 に マイナス	か な り マイナス	や や マイナス	あ ま り 気 不 満	全 く 気 不 満	得点	平均	
1. ヤボくさい職業	0	2( 3.3)	1( 1.6)	20(31.3)	41(64.1)	92	1.4	0	1( 1.6)	4( 6.3)	30(46.9)	29(45.3)	105	1.6	197
2. 出世の道が狭い	0	0	2( 3.1)	18(28.1)	44(68.8)	80	1.3	0	1( 1.6)	2( 3.1)	22(34.9)	39(60.9)	93	1.5	173
3. 私生活を束縛される	1( 1.6)	15(23.4)	28(43.8)	15(23.4)	5( 7.8)	184	2.9	4( 6.3)	13(20.3)	30(46.9)	13(20.3)	3( 4.7)	191	3.0	375
4. 今日の教育のあり方に問題	2( 3.1)	14(21.9)	34(53.1)	10(15.6)	4( 6.3)	192	3.0	6( 9.4)	15(23.4)	24( 3.8)	19(29.7)	0	200	3.1	392
5. 専門的職業として確立してない	0	0	4( 6.3)	35(54.7)	25(39.1)	107	1.7	1( 1.6)	0	7(10.9)	37(57.8)	19(29.7)	119	1.9	226
6. 教師よりしたい仕事がある	2( 3.1)	5( 7.8)	8(12.5)	27(42.2)	21(32.8)	129	2.1	3( 4.7)	3( 4.7)	7(10.9)	21(32.8)	28(43.8)	118	1.9	247
7. 父兄や社会の干渉をうける	3( 4.7)	16(25.0)	22(34.4)	20(31.3)	3( 4.7)	188	2.9	1( 1.6)	15(23.4)	29(45.3)	13(20.3)	6( 9.4)	184	2.9	372
8. 子どもが好きでない	4( 6.3)	2( 3.1)	2( 3.1)	19(29.7)	34(53.1)	106	1.7	8(12.5)	4(26.5)	6( 9.4)	15(23.4)	30(46.9)	134	2.1	240
9. 家庭にまで仕事を持ち込む	5( 7.8)	13(20.3)	21(32.8)	19(29.7)	4( 6.3)	182	2.9	2( 3.1)	17(26.6)	30(46.9)	13(20.3)	2( 3.1)	196	3.06	378
10. 自分自身が未熟である	25(39.1)	17(26.6)	15(23.4)	7(10.9)	0	252	3.9	14(21.9)	20(31.3)	23(35.9)	6( 9.4)	1( 1.6)	232	3.63	484
11. 体力が必要である	4( 6.3)	14(21.9)	16(25.0)	23(35.9)	7(10.9)	177	2.8	5( 7.8)	11(17.9)	14(21.9)	27(42.2)	7(10.9)	172	2.7	349
12. 今日の教師の実情に不満	2( 3.1)	9(14.1)	28(43.8)	21(32.8)	4( 6.3)	176	2.8	0	7(10.9)	36(56.3)	21(32.8)	6( 9.4)	184	2.6	348
13. 仕事がマンネリになりがち	1( 1.6)	0	15(23.4)	29(45.3)	19(26.7)	127	2.0	1( 1.6)	2( 3.1)	16(25.0)	31(48.4)	14(21.9)	137	2.1	264
14. 教師の資格が低い	0	3( 4.7)	2( 3.1)	30(46.9)	29(45.3)	101	1.7	0	0	3( 4.7)	36(56.3)	25(39.0)	106	1.7	207
15. 性格が適さない	4( 6.3)	17(26.6)	14(21.9)	23(35.9)	6( 9.4)	182	2.8	6( 9.4)	11(17.2)	17(26.6)	20(31.3)	10(15.6)	175	2.7	357
16. 社会的地位が低い	0	0	2( 3.1)	26(40.6)	36(56.3)	94	1.5	0	1( 1.6)	4( 6.3)	28(43.8)	31(48.4)	103	1.6	197
17. 教育の仕事に自信がもてない	10(15.6)	17(26.6)	18(28.1)	16(25.0)	3( 4.7)	207	3.2	11(17.2)	16(25.0)	14(21.9)	17(26.6)	6( 9.4)	201	3.1	408
18. デモ・シカ教師が多すぎる	3( 4.7)	5( 7.8)	13(20.3)	29(45.3)	14(21.9)	146	2.3	3( 4.7)	4( 6.3)	17(25.6)	31(48.4)	8(12.5)	152	2.4	298
19. 政治や権力の干渉をうける	6( 9.4)	7(10.9)	15(23.4)	26(40.6)	10(15.6)	165	2.6	2( 3.1)	10(15.6)	22(34.9)	23(35.9)	7(10.9)	169	2.6	334
20. 子ども相手の仕事だ	2( 3.1)	0	9(14.1)	22(34.4)	31(48.4)	112	1.8	0	1( 1.6)	6( 9.4)	22(34.4)	34(53.1)	100	1.6	212
21. 雑用が多い	0	7(10.9)	19(29.7)	28(43.8)	10(15.6)	151	2.4	1( 1.6)	8(12.5)	30(46.9)	17(25.6)	8(12.5)	178	2.6	329
22. 視野が狭くなる	6( 9.4)	15(23.4)	21(32.8)	18(28.1)	4( 6.3)	193	3.0	8(12.5)	17(26.6)	25(39.1)	12(18.8)	2( 3.1)	209	3.3	402
23. 教師タイプになりやすい	6( 9.4)	17(26.6)	22(34.4)	16(25.0)	3( 4.7)	199	3.1	7(10.9)	11(17.2)	23(35.9)	19(29.7)	3( 4.7)	189	3.0	388
24. 給料が安い	0	0	10(15.6)	37(57.8)	17(26.6)	121	1.9	1( 5.6)	5( 7.8)	12(18.8)	31(48.4)	15(23.4)	138	2.2	259
25. 任務が重大すぎる	12(18.8)	14(21.9)	19(29.7)	17(26.6)	1( 5.7)	208	3.3	2( 3.1)	18(28.1)	26(40.6)	14(21.9)	4( 6.3)	192	3.0	400
26. 女教師が多すぎる	0	6( 9.4)	11(17.2)	31(48.4)	16(25.0)	135	2.1	3( 4.7)	5( 7.8)	16(25.0)	29(45.3)	11(17.2)	152	2.4	287

表6 幼稚園教諭として望ましい人格特性

単位は人数(%)

実習前後		実 習 前					実 習 後					総合 得点		
項 目	順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	得点	1 位	2 位	3 位	4 位		5 位	得点
1. 健 康		31 (48.4)	18 (28.1)	4 ( 6.3)	5 ( 7.8)	3 ( 4.7)	252	38 (59.4)	16 (25.0)	6 ( 9.4)	2 ( 3.1)	0	276	528
2. 思いやり		19 (29.7)	8 (23.4)	2 ( 3.1)	6 ( 9.4)	3 ( 4.7)	148	14 (21.9)	9 (14.1)	10 (15.6)	5 ( 7.8)	8 (12.5)	154	302
3. 熱 心		3 ( 4.7)	15 (23.4)	15 (23.4)	5 ( 7.8)	4 ( 6.3)	134	4 ( 6.3)	13 (20.3)	11 (17.2)	8 (12.5)	8 (12.5)	129	263
4. よい判断		6 ( 9.4)	5 ( 7.8)	9 (14.1)	11 (17.2)	8 (12.5)	107	3 ( 4.7)	10 (15.6)	7 (10.9)	10 (15.6)	6 ( 9.4)	102	209
5. 人をひき つける力		2 ( 3.1)	4 ( 6.3)	6 ( 9.4)	8 (12.5)	10	70	4 ( 6.3)	2 ( 3.1)	5 ( 7.8)	7 (10.9)	0	57	127
6. 指 導 力		0	1 ( 1.6)	9 (14.1)	7 (10.9)	13 (20.3)	58	0	2 ( 3.1)	3 ( 4.7)	6 ( 9.4)	5 ( 7.8)	34	92
7. 勤 勉		1 ( 1.6)	4 ( 6.3)	7 (10.9)	5 ( 7.8)	0	52	1 ( 1.6)	3 ( 4.7)	4 ( 6.3)	4 ( 6.3)	3 ( 4.7)	40	92
8. 独 創 性		0	3 ( 4.7)	3 ( 4.7)	4 ( 6.3)	8 (12.5)	37	0	4 ( 6.3)	2 ( 3.1)	7 (10.9)	9 (14.1)	45	82
9. 注意深さ		0	2 ( 3.1)	2 ( 3.1)	3 ( 4.7)	4 ( 6.3)	24	0	0	9 (14.1)	4 ( 6.3)	4 ( 6.3)	39	63
10. 正 直		1 ( 1.6)	2 ( 3.1)	4 ( 6.3)	3 ( 4.7)	0	31	0	1 ( 1.6)	1 ( 1.6)	1 ( 1.6)	2 ( 3.1)	11	42
11. 興味の 広 さ		1 ( 1.6)	1 ( 1.6)	2 ( 3.1)	4 ( 6.3)	4 ( 6.3)	27	0	0	1 ( 1.6)	3 ( 4.7)	6 ( 9.4)	15	42
12. きちんと している		0	1 ( 1.6)	0	1 ( 1.6)	2 ( 3.1)	8	0	0	1 ( 1.6)	0	3 ( 4.7)	6	14
13. 洗 練		0	0	1 ( 1.6)	0	1 ( 1.6)	4	0	0	1 ( 1.6)	0	0	3	7
14. 須 応 性		0	0	0	0	2 ( 3.1)	2	0	3 ( 4.7)	3 ( 4.7)	2 ( 3.1)	3 ( 4.7)	28	30
15. 魅力、 風采		0	0	0	0	0	0	0	1 ( 1.6)	0	0	0	4	4
16. 克 己		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 ( 1.6)	1	1

もとの信頼性(3),④ 子どもへの愛情,子どもの幸せを願う気持ち(3),⑤ 教師の寛容や忍耐力(2),⑦ 子どもを理解する姿勢(2),⑧ 臨機応変に対処すること(1),⑨ 子どもの自主性を伸ばすこと(1),⑩ 子どもの個性を重視すること(1),⑪ 子どもとのコミュニケーション(1). ここでも,「健康な身体」ということがとび抜けて高く,また教師自身の姿勢,態

度の重要性があわせて指摘されている。実習を経験することにより,幼稚園教師というのは,健康,体力と同時に自分も向上していくものだとすることを強く痛感させられたといえる。

#### (5) 幼稚園実習と小学校実習の違い

表7は,小学校実習と比較して,指導上困ったことやむずかしかったことを上位5位まで選択し,表6と同様



に得点化した結果である。ここでは、「子どもへの働きかけ」が最も得点が高く、約半数の32名が1位にあげている。次に得点が高いのは「子どもへのことば使い」そして3番目に「臨機応変に対処すること」となり、これらの3項目は、全体の中でその得点は上位3位を占める。

これらの内容を具体的に聞いてみると、子どものとらえ方については、① 子どもの欲求や興味を大切にしている。② 子どもは遊びの中で自主性や社会性を育てていく。③ ひとりひとりの子どもの立場になって考えなければならない。指導形態については、① 一日の流れの中で一日中子どもと接している（休み時間がない）、④ 教師自ら動くことが多い、⑤ 子どもを付ることが少ない、⑥ 教材の与え方が違う、⑦ 指導でなく誘導である。指導内容については、① 基本的な生活習慣（手洗いやうがい）の指導にかかる時間が多い、② 健康や安全に注意が払われている、③ 日案をたてること、④ 園の特色（宗教など）に沿った指導があること。その他では、① 登園、降園時に父兄（特に母親）との関わりが多い、② 環境づくりや整理がたいへん、③ 雑用（そうじ、かたづけ）が多い、④ 女ばかりの職場である、といった声が聞かれた。彼女らは、小学校実習を

経験した後の幼稚園実習であるため、初めて触れる幼稚園での子ども、すなわち幼児に対して扱い方やとらえ方にまず大きなとまどいがみられる。また、小学校では限られた時間内で、指導案に沿って教科ごとの指導を行っていたのに対して、ひとりひとりの子どもに注意を払いながら全体をまとめていく方法に改めてその違いを感じていることがわかる。さらに、幼稚園では園の特殊性があり、そこでの教育方針、家庭や地域との関連、職場での人間関係といった教育内容や方法の違いだけではない多くの関わりがあることを痛感している。

#### (6) 実習後の進路および態度の変化

ここでは、①との関連で実習前に希望していた就職先が実習後にどのように変化したかを個々の学生について検討した。表8は、実習前の希望先ごとにその変化を示したものである。これらをみると、まず実習前に小学校を希望していた学生45名のうち、実習後そのまま小学校を希望する者は34名で、あとの11名は幼稚園4名は児童厚生委員3名、一般企業1名、その他2名と変わっている。そして、その理由は幼稚園に変わった学生のうち2名は実習前に「子ども（児童）とともに学んでいきたい」と答えていたのが、実習後「幼稚園実習を経験して将来

表7 小学校実習との違い

単位は人数(%)

項 目 \ 順 位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	得点
1. 子どもへの働きかけ(タイミング)	32(46.4)	10(14.5)	8(11.6)	4( 5.8)	5( 7.2)	237
2. 子どもへのことば使い	6( 8.7)	19(27.5)	9(13.0)	4( 5.8)	6( 8.7)	147
3. 臨機応変に対処する	10(14.5)	8(11.6)	11(15.9)	8(11.6)	4( 5.8)	135
4. 子どものやるき、意欲を引き出す	4( 5.8)	7(10.1)	10(14.5)	12(17.4)	6( 8.7)	108
5. 教材準備(自分で工夫、選択)	5( 7.2)	7(10.1)	3( 4.3)	5( 7.2)	7(10.1)	79
6. 子どもとの遊び	1( 1.4)	7(10.1)	6( 8.7)	8(11.6)	4( 5.8)	71
7. 時間の区切り方	6( 8.7)	1( 1.4)	3( 4.3)	5( 7.2)	10(14.5)	63
8. 子どもの個性を尊重する	2( 2.9)	3( 4.3)	2( 2.9)	10(14.5)	7(10.1)	55
9. 教材指導(ピアノ、歌、絵画など)	0	1( 1.4)	5( 7.2)	2( 2.9)	5( 7.2)	28
10. 園の教育方針(公私立、宗教)	1( 1.4)	0	4( 5.8)	2( 2.9)	4( 5.8)	25
11. 全体のバランスをとる	0	1( 1.4)	2( 2.9)	2( 2.9)	7(10.1)	21
12. 職場での人間関係	0	2( 2.9)	1( 1.4)	1( 1.4)	0	13
13. 安全指導	0	1( 1.4)	3( 4.3)	0	0	13
14. 生活指導(挨拶、手洗い、お弁当)	0	1( 1.4)	0	2( 2.9)	2( 2.9)	10
15. 健康指導	0	0	0	1( 1.4)	0	2
16. 母親との関わり	0	0	0	0	0	0

の可能性をもった子ども（幼児）に関わっていきたい」という内容のことを答え、他の2名は特に理由はなかった。児童厚生委員を希望した学生は「同じ児童教育に携わっていきたい」と答え、一般企業を希望した学生は「子どものひとりの人生に大きく関わっていくことがこわい」と答えている。また、その他のうち1名は施設を希望している。次に、実習前に幼稚園を希望していた学生7名については、実習後幼稚園希望者4名、一般企業1名、公務員1名となるが、それぞれ特にその理由はみあたらない。幼稚園、小学校どちらかを希望していた学生10名については、幼稚園3名、小学校3名、一般企業2名、公務員1名となり、ほとんどの学生が「子どもが好きだから」「やりがいがあるから」と実習前後とも、その理由は変わっていない。どちらも子どもに関わっていくことに違いはなく、何らかの形で子どもと接していきたい希望が変わっていないことがわかる。また、公務員を希望した学生は「幼稚園実習を経験して、幼稚園教育のすばらしさを知り、今後の仕事の中でも生かしていきたい」と答えている。しかし、実習後一般企業を希望した学生は「親がすすめたから」「自分が教師にむいていないと思う」と答えている。

表9は、実習前後の教師になりたい程度の変化を示したものである。まず、実習前にA（非常にになりたい）、と

表8 実習前後の就職先希望の変化 単位は人数(%)

実 習 前	実 習 後
小学校希望者 45名	小学校34( 75.6) 幼稚園 4( 8.9) 児童厚生員 3( 6.7) 一般企業 1( 2.2) その他 2( 4.4)
幼稚園希望者 7名	幼稚園 4( 57.1) 一般企業 1( 14.3) 公務員 1( 14.3) 未 定 1( 14.3)
幼稚園か小学校 10名	幼稚園 3( 30.0) 小学校 3( 30.0) 一般企業 2( 20.0) 公務員 1( 10.0) 未 定 1( 10.0)
一般企業 2名	一般企業 2(100.0)

答えた学生23名では、実習後同じくAと答えたのが17名、B（かなりなりたい）、3名、C（ややなりたい）が1名、D（あまりなりたい）が1名となる。そのうちC・Dと答えた学生は就職先についても、それぞれ小学校希望から、施設、一般企業へと変わっている。実習前にBと答えた学生25名では、Aに変わった者が13名、Bが7名、Cが2名、Dが1名となっている。次に、Cと答えていた学生7名では、実習後Aが1名、Bが1名、Cが3名、Dが2名となり、Dのうち1名は就職先が小学校から一般企業へと変わっている。

就職先希望とあわせてみると、実習前後において希望先が一定し、幼稚園あるいは小学校と変わらなかった学生は、その教師になりたい程度も実習前から比較的高く実習後ではさらに高い値を示している。しかし、実習前後で希望先が幼稚園あるいは小学校希望から一般企業などに变化した学生は、実習前からそのなりたい程度もあり高くなく、実習後ではさらに低くなっている。これらの結果は、実習が就職先や動機など彼女らのその後の生き方や進路を決定するうえで重要な意味をもっていることが示唆される。

(7) 幼稚園教育と小学校教育の関連についての両実習経験を通じての感想

最後に本研究の主題である幼稚園教育と小学校教育の関連について、両方の教育実習を経験した学生は、どう考え、どう感じているか、その生の声を中心に述べまとめとしたい。

全体としての印象は、小学校教育に対する批判に集中し、幼稚園が子ども1人1人のものさしに合わせた人間教育が行なわれているのに対し、小学校では画一化した教育に一変することを指摘した学生が半数以上を占め、非常に多いということである。学生差や幼稚園差が大きいはずなのにこのような結果になっていることに現行の幼小両教育の間に共通した問題があり、同時に両者の相互理解によっても改善しうる余地があることを示唆するものとして興味深い。

「…幼稚園において、子ども理解（子どもの発達、興味、個人差など）を充分した上で教育しているのに比べ、小学校1・2年生の先生にもう少し、子どもを理解する必要があるのではないかと思う、どちらかというと、小学校は授業中心になりがち（授業で勝負というのはよくわかるが）なので、特に生活面に目がとどかないような気がする。幼稚園年長児は、小学校に対して多大な

表9 実習前後の教師になりたい程度の変化

単位は人数(%)

実 習 前	実 習 後				
A(非常になりたい) 23	A(非常になりたい) 17(68.0)	B(かなりになりたい) 3(13.4)	C(ややなりた たい) 1( 4.3)	D(あまりなり たくない) 1( 4.3)	E(絶対なりた くない) 0
B(かなりなりたい) 25	13(52.0)	7(28.0)	2( 8.0)	1( 4.0)	0
C(ややなりたい) 7	1(14.4)	1(14.4)	3(43.2)	2(28.5)	0
D(あまりなりたくない) 0	0	0	0	0	0
E(絶対なりたくない) 0	0	0	0	0	0

待を持っている。幼稚園から小学校へ進むことがスムーズに行なわれることを願いたい…」(H.実習前, 小学校, 実習後, 幼稚園希望)

「同じように子どもを育てていく教育の場でありながら目標とするものがまるで違っていることを感じた。特に幼稚園の場合は、園の方針により教育観、子ども観がはっきりして、それに基づいて保育されている。しかし、どの園においてもほぼ共通しているのが、基本的な生活習慣の育成である。小学校教育になると、さらに細かい指導要領が掲げられているにもかかわらず、案外先生方にいきわたった教育観のようなものが感じられない……。幼稚園の個性的な綿密な教育が一概にいいというわけではないが、幼稚園と小学校の教育方針のギャップを一番肌で感じるのは子ども達自身だと思う。園で身につけたよい習慣が生かされないことが多いのも残念気がする…」(O.実習前小, 実習後小)

「幼稚園のあまり時間に束縛されない生活から、小学校の一日机に向かわなければいけない生活へいきなり変えるのはよくないと思う。創造性豊かな子どもを型にはめてしまう危険が大きい。…幼稚園と小学校(低学年)は分けずにひとつの流れとして考える方がいいと思うし、現状では、互いに密接な連絡を取ることが必要であるだろう」(F.実習前, 一般企業, 実習後, 幼)

「小学校実習の時、5年生を担当して、1年生をみせていただいた時ひどく幼いものにみえた。また、周囲もまだ1年生ということで自主性を重んじる事も比較的少なかった。ところが、幼稚園における年長という状況で

見た場合、子どもの役割も大きく何かとたよられている存在で、またそのようにたよられる事により生き生きとしている。このように幼稚園で育てられてきたものが(自主性など)より伸ばされるように、幼稚園、小学校の密接な関係が必要である。1年生として甘やかしてしまう傾向、小学校でのみそっかす的に扱われるのは、子どもの成長を一時期少し停滞させられてしまう」(N.実習前幼, 実習後児童厚生員)

このように幼小の実習を通して学生の目に映ったのは前者が子ども一人一人の個性を全体的にとらえようとしているのに対し、後者は「それを区切られた形」(M.実習前小, 実習後小)でとらえ、「子どもが主人公になれる場が今の小学校で多く持たれる事は難しくなっているところで、何か違う」(同)ということである。そして「幼児と接してみて、あらためて、ひとりひとりの違いをかんじました。ひとりひとりとは全く違った部分をたくさんもっている。幼児教育の場合は、それをあたり前のこととしてとらえられているのに、なぜ小学校の場合はみんな同じでないといけないということを基準に子どもたちを全体、集団でとらえているように思う。あらためて“子ども”を考えさせられたように思うし、幼児教育を通して、小学校教育のあり方を再度問い直さなければならぬと感じた。」(H.実習前小, 実習後小)ということに集約されるように思う。

したがって、それに続く意見として、幼小の相互のコミュニケーションを強く要望したものが多い。「幼稚園教育と小学校教育はつながりのあるものですから、もっ

と幼稚園と小学校の先生方の交流を深め、お互いのよい面を取り入れていくように心がけるべきだと思います」

(Ka.実習前小, 実習後小)

「……困るのは子どもたちである。幼稚園, 小学校双方からその点についてもっと話しあう必要があると思った」

(T.実習前小, 実習後幼)

また、彼女らはそういう点で「幼稚園も小学校も両方の実習をさせていただき本当によかった」(ka)と述べ、さらに「実習先で幼小両免許をもつ教師がとても子ども1人1人のことを理解しているなと思いました……。言葉のはしはしにあふれているのです……。」(ko.実習前小, 実習後小)などと述べた意見もある。

幼小さいずれの教師になる場合でも、両免許を取得するか否かはともかくとして、事情が許せば双方で実習することの意義は殊のほか大きいように思う。なお少数ではあるが、幼稚園教育のあり方をめぐって一方で自由保育が小学校の準備教育という面ではかえって子ども不在になりやすいことを指摘した意見や、逆に自由保育を小学校側が理解してくれないことに対する幼稚園側のジレンマを述べた意見などがあった。しかし、いずれの場合でも彼女らの結論は両者のコミュニケーションの不在であり、ひいてはそれが子ども不在につながりやすいことである。文部省の定めた表向きの目標は、幼小一貫の形をとりながら、前回も指摘した現実の教育の場では、かなりのギャップがあることを、実習を通じ彼女らなりにしっかり受けとめている印象をうける。その他、言葉づかいの問題など(例えば、幼稚園では「～しようか」、小学校では「～しなさい」)こまかな相違を指摘し、それらが微妙に子どもの心に影響するのではないかと述べたものなど多くの貴重な意見が寄せられている。改めて現行の幼稚園教育と小学校教育の間には、予想以上に大きく根の深い問題が横たわっていることを痛感した次第である。

#### IV 今後の課題

以上、幼稚園教育と小学校教育の関連について、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の比較、および学生の調査結果を中心に、それぞれの教育内容の違いや望ましい教師のあり方などを検討してきた。現在は、社会情勢のあらゆる変化から学生の職業決定もさまざまな要因が考えられる。しかしながら、どのような職業に携わっても幼稚園と小学校の両実習を体験したことは、幼児や児

童の理解のみならず、自分のすすむべき人生の決定においてもひとつの手がかりとなるであろう。そして、さらに幼稚園と小学校の間にはさまざまな違いや問題が介在するが、このような現実場面での生々しい体験がもてたということは、将来両者の関係を改善し、真に子ども中心の教育のあり方に近づけるうえで貴重な意味をもつものと考えられる。その意味が充分生かせ、価値あるものにしていくことは彼女らの今後の課題であるが、それは同時に彼女らの指導に携わる教員養成校においても当然真剣に取り組むべき大きな課題といえるだろう<sup>9)</sup>。

また、幼稚園と小学校の一貫教育を考えていくうえで忘れてはならないのが保育所の存在である。就学前教育の場として、幼稚園と保育所は従来から幼保一元化の問題として多面的に論議され、決着のつかないまま今日に至っていることは周知の通りであるが、人間はタテに生きる存在であり、次にくる小学校教育とこれら就学前教育の問題もそれに劣らず、充分検討を要する緊要の課題である。

本稿では、調査対象者も1クラスに限られ、考察も不十分であったが、今後、対象者を増やし、可能な限り長期にわたって教育現場に出てからの彼女らを追跡していくと同時に、保育所、幼稚園、小学校との関係について検討していく予定である。

#### 謝 辞

本研究を進めていくにあたって、貴重な資料、また諸助言をいただきました山内昭道先生、教材研究室の先生方をはじめ、児童、保育科の諸先生方に心から感謝申し上げます。

#### 註

- 1) 福田啓子、武石仁美「幼稚園教育と小学校教育の関連について、その1、その2」、日本保育学会第36回大会研究論文集, pp.40～43
- 2) 福田啓子、武石仁美「幼稚園教育と小学校教育の関連について」、東京家政大学研究紀要第24集(1) pp.91～99
- 3) 文部省幼稚園教育要領
- 4) 文部省小学校学習指導要領
- 5) 鈴木裕子、橋口英俊、山内昭道「保育者養成に関する基礎的研究〔1〕」、日本保育学会第32回大会研究論文集, pp.522～523

- |                                |                                      |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| 6) 文部省幼稚園教育要領総則基本方針(10)        | 4) 特集幼児教育：児童心理, No375, 1977,<br>金子書房 |
| 7) 学校教育法施行規則 第25条の2            |                                      |
| 8) 文部省小学校学習指導要領, 総則 7の(1)      | 5) 小学校教育実習報告書 1981年版                 |
| 9) 本研究の一部は, 日本保育学会第37回大会で発表した。 | 6) " 1982年版                          |
|                                | 7) " 1983年版                          |
|                                | 8) " 1984年版                          |
|                                | 9) 幼稚園教育実習報告書 1981年版                 |

# 参 考 文 献

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| 1) 文部省小学校課, 幼稚園課編集：小学校低学年の<br>教育を考える 初等教育資料, No458, 1984,<br>東洋館出版 | 10) " 1982年版              |
| 2) 鈴木一郎他：教育指導の実際 1984, 健帛社   | 11) " 1983年版              |
| 3) 特集子どもがわかる26章 児童心理, No464,<br>1984, 金子書房                         | 12) " 1984年版              |
|  | 13) 小学校低学年のしおり 1981・教材研究室 |
|  | 14) 小学校中学年のしおり 1982・教材研究室 |
|  | 15) 小学校高学年のしおり 1982・教材研究室 |